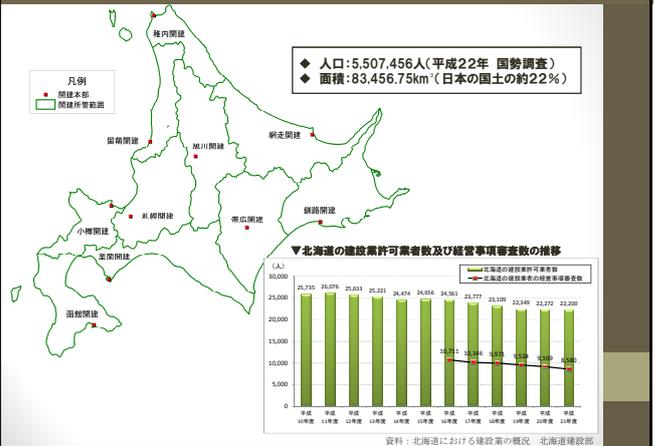
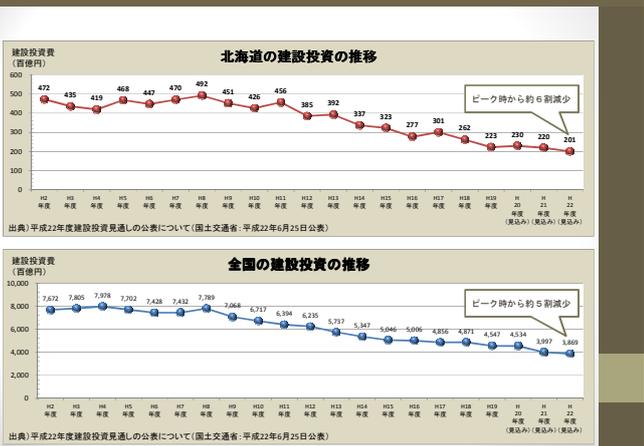


北海道における 戦略的建設マネジメント研究 (第3種)

1. 北海道の建設業の概要



2. 北海道と全国の建設投資の推移



3. 北海道土木技術会 (昭和33年9月17日発足)

【北海道土木技術会の活動目的・内容】

北海道土木技術会は、昭和29年(1954年)に設立され、**北海道の土木技術の向上、発展を目的として活動**している。会員は北海道内の大学の研究者、民間企業の技術者、行政機関の技術者などにより構成され、**積雪寒冷地の北海道に関わる土木技術について調査・研究するほか、技術書の発刊、歴史的資料の取りまとめ、講習会・講演会の開催など多彩な活動**に取り組んでいる。

北海道土木技術会には、鋼道路橋研究委員会、コンクリート研究委員会、舗装研究委員会、トンネル研究委員会、道路研究委員会、土質基礎研究委員会、建設マネジメント研究委員会の**7つの研究委員会**がある。

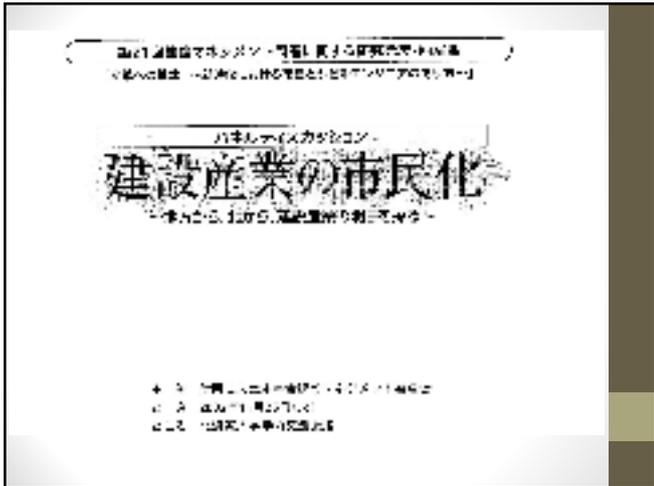
- 【研究委員会の概要】
- ▶ 鋼道路橋研究委員会 (昭和40年発足、会員:308人)
 - ▶ コンクリート研究委員会 (昭和29年発足、会員:368人)
 - ▶ 舗装研究委員会 (昭和55年発足、会員:116人)
 - ▶ トンネル研究委員会 (昭和60年発足、会員:241人)
 - ▶ 道路研究委員会 (昭和29年発足、会員:個人60人、企業57社)
 - ▶ 土質基礎研究委員会 (昭和40年発足、会員:個人349人、企業101社)
 - ▶ 建設マネジメント研究委員会 (平成13年発足、会員:210名)

4. 北海道土木技術建設マネジメント研究委員会

- ▼公共関連小委員会
 - ⇒多様な事業執行と入札・契約方式についての研究
 - ・総合評価WG
 - ⇒総合評価の公平性・透明性の研究
 - ・道路維持WG
 - ⇒適正な道路維持工事、官民負担の考え方
- ▼民間活力推進小委員会
 - ⇒民間資金や能力を活用する研究
- ▼建設経営革新小委員会
 - ⇒地域の建設業者が行う経営革新の取り組み、人材育成に関する調査・研究
- ▼施工プロセス小委員会
 - ⇒建設施工における生産性向上、効率化についての調査・研究
 - ・建設施工情報化WG
 - ⇒情報化施工、ASPに関する調査・研究
- ▼アセットマネジメント小委員会
 - ⇒社会基盤施設の維持管理についての研究

5. 発足時の小委員会

- ▶ VE小委員会
- ▶ PFI小委員会
- ▶ ISO小委員会
- ▶ CALS/EC小委員会
- ▶ PM・CM小委員会
- ▶ AM小委員会



6. 札幌宣言

～第21回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会 パネルディスカッション資料より～

札幌宣言

建設産業は、公共事業における設計、施工を始め調査、計画、資機材の開発など広い分野に展開し、世界をリードする技術力を持って高質なインフラ整備に努め、経済産業の発展や国土の保全、安全、快適で豊かな国民生活の確保、向上に寄与してきた。しかしながら、その多くは官公需の受注産業の域に留まっており、また単品・現場生産の性格などからマネジメント技術や生産性の面でも他産業に遅れを取っている実態は否めない。

今日、我が国のインフラは、欧米諸国には及ばないもの一定の水準には達することができたとの認識も見られる反面、これまで蓄積されてきた多くが更新期を迎えようとしている。また一方で、国及び地方の財政が危機的状態にあることに加え、人口減少社会の到来も予見されているなど、先行き不透明な閉塞感が漂い、公共投資においても確たる展望を描くことが極めて難しい状況にある。

もとより、公共事業は国民生活の安全、安心、快適など将来にわたる社会の安定や向上、活力の醸成、経済産業発展の基盤づくりを目的に行なわれるものである。また、国土条件の厳しい我が国は、災害に強い国土の建設と共に、被害を最小限に止める危機管理システムの構築が不可欠である。従って、このための「国づくり・地域づくり・まちづくり」は、そこに生きる人々の満足度の維持と向上を図りながら、確固たる国土マネジメントの理念の下に、様々な課題を乗り越え、たゆむことなく堅実に進められて行く必要がある。

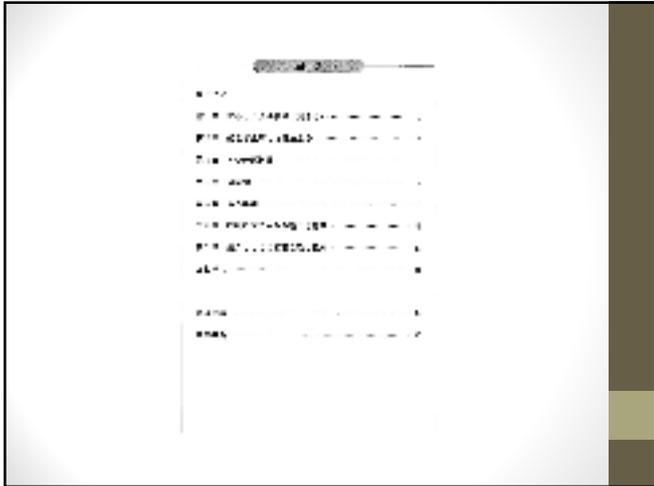
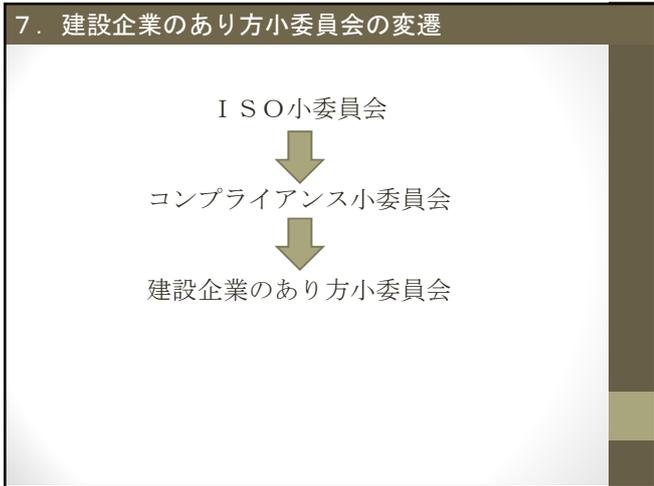
今後の建設産業は、**真の顧客である市民の身近な存在として、その息遣いを感得する感性を磨きながら、自発的なポリシーを持って生産性の向上などに努力し、発展して行くことが大切である。**特に地域で活動する建設産業には、これまで蓄積してきた地域情報、技術力、機動力、ネットワークを活かし、NPOなど市民団体との連携も図りながら、プロフェッショナルとして行政とともに地域の生活や産業を支えていく責務がある。

建設産業の市民化とは、時として、荒削りのままナショナルミニマムとして提供される公共サービスを、地域の風土や文化、市民生活に柔軟に調和させる作業ともいえる。これは、市民生活の中で顕在化した課題を取りまとめ、形にする作業であり、潜在している問題を掘り起こし市民と共に解決を図る作業でもある。すなわち、建設産業が目指すべきところは、単なる受注産業から脱皮し自律した市民産業として、市民にとって、必要欠くべからざる存在に進化することである。

ここに、建設産業が真に市民のための産業として進化して行く決意を宣言し、建設産業に対する国民一般の更なる理解及び全国関係者の一層の奮起を期待するものである。

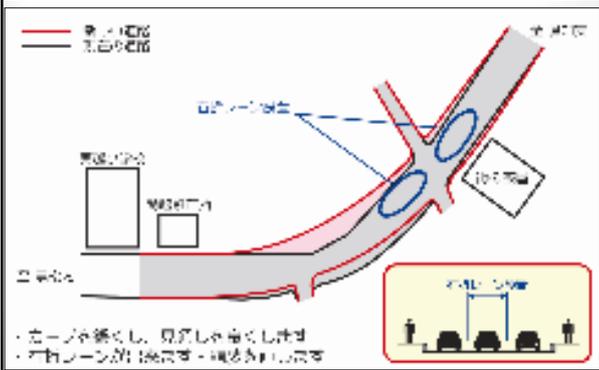
2003年11月25日

「第21回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会」
現地実行委員会 委員長 伊藤 昌勝



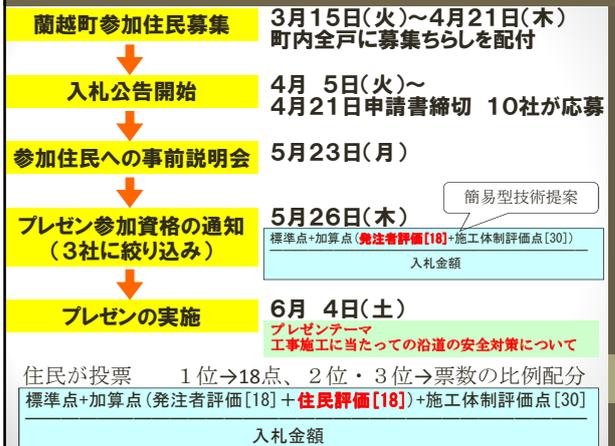
- #### 縮小した公共事業は戻らない
- ▶ 公共事業の減少は既定事実
 - ▶ 「インフラ整備が遅れている」はもう通じない
 - ▶ そろそろ安定化する可能性もある
 - ▶ 北海道はさらに要注意
- #### 経営者主導で方針決定を
- ▶ 変曲点を見越したのか
 - ▶ 経営者は英断を
 - ▶ 新たなビジネスモデルを求めて

8. 「一般国道5号 蘭越町 蘭越市街線形改良工事」
住民参加型入札実験の概要



市街地の視距を改良することによる交通安全対策

手続き工程



住民参加入札結果

会社名	発注者評価点(18点)		施工体制評価点	住民評価点(18点)	入札金額(億円)	評価点数	住民得票数
	施工計画	実績等					
A社	8.0	5.5	30		0.7170	200.1394	
B社	8.0	4.5	30		0.7244	196.7145	
C社	8.0	4.5	30		0.7280	195.7417	
↓							
B社	8.0	4.5	30	18	0.7244	221.5626	12
A社	8.0	5.5	30	12	0.7170	216.8758	8
C社	8.0	4.5	30	0	0.7280	195.7417	0

◎住民投票の結果、逆転でB社が落札

項目別の5段階評価による住民評価

①~⑧の項目で各社を5段階評価してもらった結果である
全体としてA社の点数が高い。落札したC社は「地域精進度」が高い。

	A社			B社			C社		
	合計	平均	順位	合計	平均	順位	合計	平均	順位
① 工事中の歩行者の安全に効果があると思いましたが	81	4.05	①	60	3.00	③	74	3.89	②
② 工事中の自動車の安全に効果があると思いましたが	78	3.90	①	60	3.00	③	73	3.65	②
③ 工事中の自動車の円滑な交通に役立つと思いましたが	75	3.75	①	59	2.95	③	68	3.58	②
④ 提案された内容は、良く工夫されていると感じましたか	73	3.65	②	54	2.70	③	74	3.70	①
⑤ 提案を聞いて、会社の技術力を感じましたか	73	3.65	①	59	2.95	③	72	3.60	②
⑥ 提案を聞いて、地域のことを良く理解していると感じましたか	75	3.75	②	49	2.45	③	85	4.25	①
⑦ 説明は分かりやすかったですか	81	4.05	①	57	2.85	③	77	3.85	②
⑧ 業者に信頼感を感じましたか	81	4.05	①	61	3.05	③	80	4.00	②
計	617	3.86	①	459	2.87	③	603	3.82	②

・A社とB社の投票数の順位は、項目別5段階評価の合計点数の順位とは逆転する結果となった

・ただ、「⑥提案を聞いて、地域のことを良く理解している

と感じましたか」の設問では、B社は、群を抜いて高い評価を得ており、今後分析が必要であるが、当該評価が住民の信頼感に結びついていると予想している

・今後、評価結果やアンケートの分析を行い、投票要因の解明等を進めていきたい

